様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　５月１１日現在

機関番号：１５３０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2011
課題番号：20520387
研究課題名（和文）方言・歴史・理論の融合を目指した日本語指示詞の研究
研究課題名（英文）　Research on Japanese Demonstratives aiming at the fusion of dialectal, historical and theoretical studies.
研究代表者
堤　良一（TSUTSUMI　RYOUICHI）
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授
研究者番号：80325068

研究分野：日本語学、言語学
科研費の分科・細目：方言学
キーワード：指示詞、方言研究、歴史的研究、記憶指示、直示

１．研究計画の概要

本研究は、日本語の指示詞について異なる立場の研究者が連携して調査・記述的研究を総合的に展開し、さらに理論化することにより、現在の日本語文法研究における問題意識にこたえるとともに、日本語研究に対する社会的・実際的要求にも応じようとするものである。

具体的には、従来観念指示、記憶指示と呼ばれてきたア系列の用法は、話者の直接体験を必要とすると言われてきたが、九州のある地域の方言においてはこれが必ずしも必要ではないように思われる。まず、この事実の存在を明らかにすることが目的の一つである。そこから指示詞の理論に貢献すること、さらにはそのような違いを歴史的な立場から検討することを通じ、方言研究、歴史的研究、言語学的研究の融合を目指すものである。

２．研究の進捗状況

これまでに、数度の九州方言話者への予備調査を行い、一昨年度９月には佐賀県嬉野市において、調査を行っている。この調査では実際に体験をしていなくても、ア系列指示詞を用いて発話する話者の存在が認められた。一方、調査法については改めて検討すべき点もあった。具体的には、ア系列指示詞の観念指示、記憶指示と言われている用法の中には、共通語においても、「あー前話してたアノ人ね」のように、実際には会っていなくてもアで指せる場合がある。この用法を「例の読み」と名付けると、調査で使用した例文にはこれらの「例の読み」ができるア系列を排除する必要があるであろう。今後の課題である。

また、調査を進めていく中で、現場指示の指示詞の用法を明らかにしていかなければ、指示詞の全体的な用法をつかめないことも分かってきたので、前年度は現場指示用法についての調査を岡山市で二度にわたり行っている。

３．現在までの達成度

現在までの達成度としては②のおおむね順調に進んでいると認められる。一昨年度の調査である程度、実際に最初の課題であった、直接経験なしに使用できるア系列の存在をつきとめることができたと考える。もちろん、精緻な調査はこれからの課題であり、これは当初の予定よりは遅れているが、調査の中で見えてきた「例の読み」のア系列の存在があり、これは理論的な考察を行った上で調査項目を作成していかなければならない者である。

一方で、現場指示用法の指示詞の調査という新たな課題を設定したことは大きな進歩と言える。これについては高橋・中村(1992)、安部(2010)などで、関東方言話者に対する調査が報告されており、我々の研究では西日本を中心にした若者の現場指示用法の使用実態を調査している。その結果、指示詞の現場指示用法には使用の違いもあるようである。この調査は本年度、九州地方、関西地方でも行う予定である。

ただ、当初計画していた東北地方への調査は、昨今の被災状況を考慮すれば実施は難しいと考えられる。

４．今後の研究の推進方策

上記のように、調査を進めていく上で、まずは現場指示用法の調査を中心に進めていくことになっている。

すでに岡山地方では二度にわたる調査を行っており、今夏には関西地域、そして九州地域での調査を予定している。調査方法に関しては昨年度の最終会議で話し合い、先行研究とは少し違った形での調査方法を開発する予定である。その場合、岡山県内での指示詞調査も再度行う必要が出てくるかもしてない。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

①雑誌論文（６件）

堤良一(2011)「西日本の若者のコソアー高橋調査法による岡山大学での調査からー」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』31:15-26 頁、岡山大学大学院社会文化科学研究科

岡﨑友子(2011) 「指示代名詞の直示用法における領域調査－高橋調査法による，2010 年中四国地方の若者のコソアー」就実論叢、29-48 頁

松丸真大(2010)「方言話者のスタイル切換え」日本語学、142-152 頁

②学会発表（7 件）

堤良一「中国語母語話者による日本語の現場指示詞の用法について」日本語プロフィシェンシー研究会 2010 年研究例会における口頭発表、京都外国語大学（京都市）、2010 年 11 月 13 日）

岡﨑友子・堤良一「指示代名詞の直示用法における領域調査－高橋調査法による、2010 年若者のコソアー」（岡﨑友子（就実大学）・堤良一）、土曜ことばの会・第 5 回指示詞研究会における口頭発表、大阪大学（豊中市）、2011 年 1 月 22 日

Matsumaru, Michio "Variation and change of honorifics in subordinate clauses," 19th Japanese/Korean Linguistics Conference, University of Hawai'i at Manoa, 2009.11.14

堤良一「日本語の言語表現と言語文化～フィラーを中心に～」韓国江原大学人文大学日本学科における研究発表、江原大学人文大学、2009 年 8 月 26 日